

赤十字講習の概要

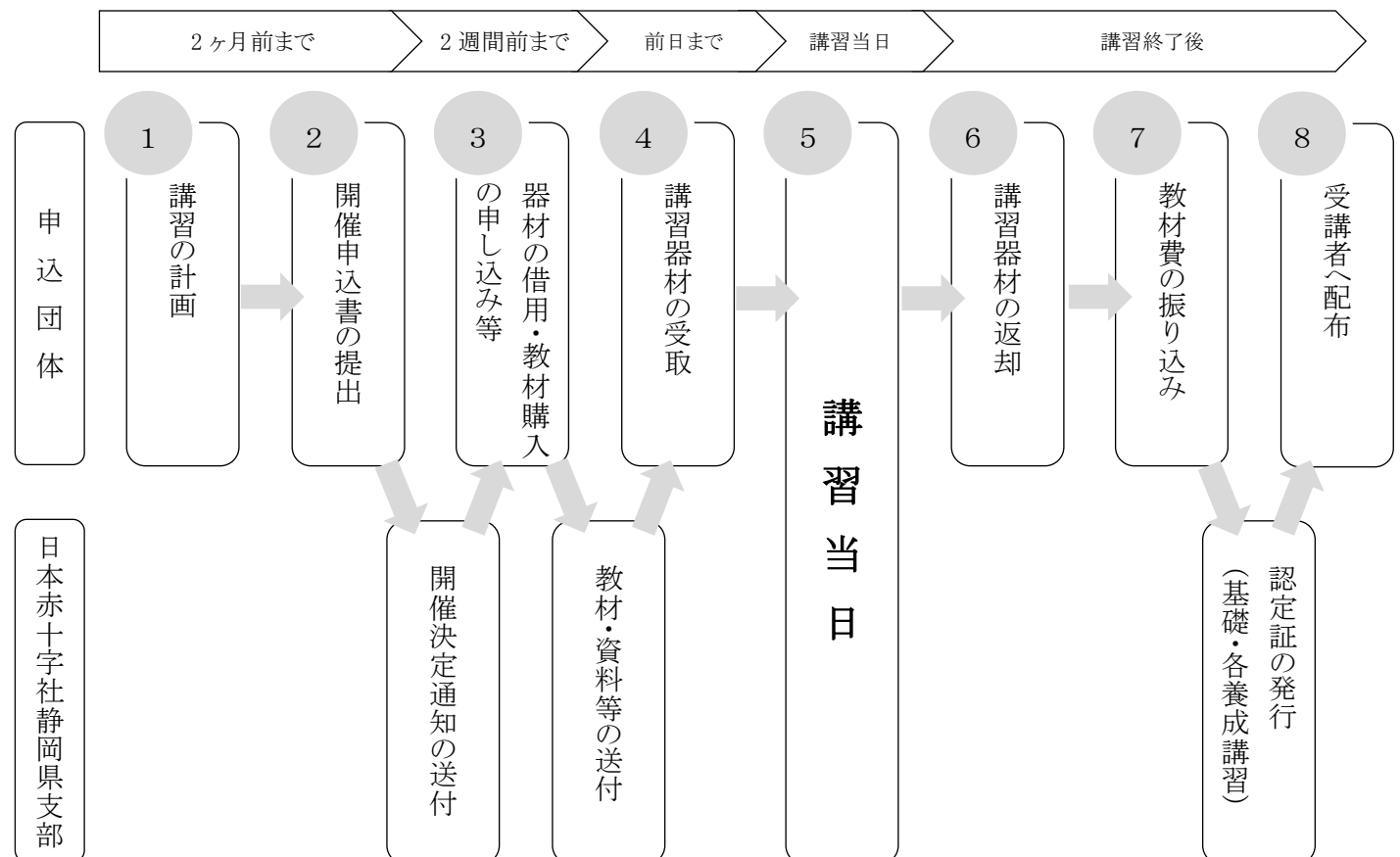
(令和3・4年度版)

講習の種類 詳細は各講習のページをご覧ください。

講習種類	講習内容	講習時間	最大受講者数
救急法	基礎講習	5 時間以上	30 人
	救急員養成講習	12 時間以上(2 日間)	30 人
	短期講習	1 時間 30 分または 30 分／項目	30 人
	赤十字 BLS 入門講座	45 分または 50 分	60 人
水上安全法	救助員 I 養成講習	17 時間以上(3 日間)	30 人
	短期講習	1 時間 30 分／項目	30 人
健康生活支援講習	支援員養成講習	13 時間以上	20 人
	短期講習	1 時間～2 時間	30 人
幼児安全法	支援員養成講習	14 時間以上(3 日間)	30 人
	短期講習	1 時間 30 分／項目	30 人
減災セミナー	1 時間 30 分コース	1 時間 30 分	80 人
	45 分・50 分コース(※)	45 分または 50 分	90 人

※ 減災セミナー 45 分・50 分コースは、小学校高学年～高校生向けです。

講習開催の流れ 詳細は次のページをご覧ください。



(1) 講習の計画

- ◆ 申し込みは、開催希望日の **2ヵ月前まで**です。
- ◆ 会場は静岡県内に限らせていただきます。会場内には、机、椅子等を整え、十分な広さを確保してください。
- ◆ 開催希望日は、**必ず第1希望日と第2希望日を設定**してください。特に、5月～8月に講習が集中するため、第1希望日を5月～8月とした場合、第2希望日は9月以降にしてください。
- ◆ 開催人数は、講習毎異なりますので、詳細は各講習のページをご覧ください。
なお、**最大講習人数を超える場合は、日にちや時間を分けるなど調整をお願いします。**

(2) 開催申込書の提出

- ◆ 「**開催申込書(様式1～5)**」は、各市町の日赤窓口(地区分区)にご提出ください。
各地区分区との共催の場合は、指導員派遣費のご負担はありません。
- ◆ 会場及び駐車場所が分かりにくい場合は、申込書と併せて地図をご提出ください。
- ◆ 希望日で開催できない場合は、開催日の調整を行います。
- ◆ 開催決定後、開催決定通知(受託通知)を送付します。
なお、決定後の講習時間等の変更は、日本赤十字社静岡県支部までご連絡ください。

(3) 器材の借用・教材購入の申し込み等

- ◆ 器材の借用・教材の購入は、【講習器材借用・購入申込書】にて**開催日の2週間前までに**日本赤十字社静岡県支部までお申し込みください。**救急法・水上安全法については、借用・購入が不要の場合もご提出ください。**
- ◆ 講習器材^{※1}の借用を希望する場合は、原則、最寄りの器材保管施設^{※2}での受取と返却が必要です。宅配便による器材の配送は行いません。

※1 講習器材…心肺蘇生訓練用人形、AEDトレーナー、副子、担架、毛布 等

※2 器材保管施設…日本赤十字社静岡県支部(静岡市葵区)、血液センター沼津事業所(沼津市)、
血液センター浜松事業所(浜松市東区) 等

- ◆ 基礎講習・各養成講習については、受講証及び認定証発行のため、以下の内容を記載の上、講習開催日の2週間前までに、『データ(Excel または Word)』にてご提出ください。

必 須	氏名、フリガナ、性別、生年月日
任 意	郵便番号、住所、出席番号(学校の場合)

- ◆ 講習で使用する教材等は、講習開催日の1週間前までにお送りします。受講者数に大幅な変更がある場合は、これよりも前にご連絡ください。なお、日本赤十字社静岡県支部から講習器材の貸し出しを受ける場合は、その際にお渡しします。

(4) 講習器材の受取

- ◆ 講習器材の貸出は、**指定された日時を厳守**してください。

(5) 講習当日

- ◆ 安全に配慮し講習を実施してください。

(6) 講習器材の返却

- ◆ 講習器材の返却は、指定された日時を厳守してください。
- ◆ なお、器材の破損等があった場合は、日本赤十字社静岡県支部までご連絡ください。

(7) 教材費の振り込み

- ◆ 教材の納品後、2 か月以内に指定の口座へお振込みください。なお、振込手数料は、お振込者側にてご負担ください。

(8) 認定証の発行

- ◆ 基礎講習・各養成講習については、検定合格者の認定証を 1 ヶ月以内に団体担当者あてに送付しますので、配付をお願いします。
- ◆ 資格認定(認定証の交付)のある講習は、以下のとおりとなります。

講習種類	講習内容	認定証名	有効期間
救急法	基礎講習	ベーシックライフサポーター	5 年
	救急員養成講習	ファーストエイドプロバイダー	
水上安全法	救助員 I 養成講習	水上安全法救助員 I	
健康生活支援講習	支援員養成講習	健康生活支援講習支援員	
幼児安全法	支援員養成講習	幼児安全法支援員	

空き状況の照会(令和 3 年 4 月以降)

以下の内容を記載し、日本赤十字社静岡県支部までメール(koshu@shizuoka.jrc.or.jp)または FAX (054-254-5830)にてお問い合わせください。

① 講習開催希望日	④ 申込団体名(担当者連絡先含む)
② 開始時間および終了時間	⑤ 講習名・講習内容
③ 会場名(未定の場合は、市町名)	⑥ 受講者数

お問い合わせ先

日本赤十字社静岡県支部 事業推進課 講習普及係

〒420-0853 静岡市葵区追手町 44-17

TEL 054-252-8131 FAX 054-254-5830 E-mail koshu@shizuoka.jrc.or.jp

新型コロナウイルス等感染症対策について

<お申し込みの際に>

- ◆ 感染症等の状況により、急遽、講習を中止とさせていただく場合があります。
- ◆ 受講者は、開催地域の住民等を対象とし、県外在住者の受講はご遠慮ください。

<講習前>

- ◆ 担当者は、参加者名簿を作成してください。
- ◆ 事前に送付する「安全に講習を行うために、受講者の皆様へお願い」「健康チェック表(検温や体調確認等)」を全受講者に配布し、講習当日に「健康チェック表」を指導員が確認します。。
なお、名簿及び「健康チェック表」は、団体にて2週間程度保管をお願いします。

<講習当日>

- ◆ 手指消毒薬及び指導員用マイクを会場にご準備ください。
- ◆ 講習の前後には、十分な手指消毒(手洗い)を行ってください。
- ◆ 講習中は常時マスクの着用をお願いします。指導員も常時マスクを着用します。
- ◆ 講習中は飛沫感染防止策を講じたうえで、人との間隔を1mから2m程度空けてください。
- ◆ 講習会場の窓を開けて十分な換気を行ってください。
- ◆ 人と人が接触する実技は、指導員のデモンストレーションを含み実施しません。
- ◆ 3つの密が避けられないグループワーク等は実施しません。
- ◆ 標準の講習時間より短縮して実施する場合があります。
- ◆ 体調が悪い受講者がいる場合には、状況を確認し受講参加の可否、講習の中止等について判断させていただきます。

<講習終了後>

- ◆ 講習時、感染者または濃厚接触者がいたことが判明した場合は、日本赤十字社静岡県支部までご連絡をお願いします。

救急法

病気やけがや災害から自分自身を守り、傷病者を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの救命手当及び応急手当を学びます。

講習は、救急法基礎講習、救急員養成講習、短期講習(BLS 入門講座含む)があり、内容は次のとおりです。

1. 救急法基礎講習

① 講習内容	<p>病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や傷病者を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの一次救命処置を学ぶ講習です。</p> <p>○手当の基本(観察・体位)</p> <p>傷病者と救助者自身の安全を確保するために二次事故の危険性について学び、傷病者の観察の基本を実践します。</p> <p>○心肺蘇生とAEDを用いた除細動</p> <p>心臓や呼吸が停止した傷病者の発見から、救急隊に引き継ぐまでの手順を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周囲の観察・全身の観察 2. 反応(意識)の確認 3. 協力者の要請 4. 呼吸の確認 5. 胸骨圧迫 6. 気道確保・人工呼吸 7. AEDを用いた除細動 <p>※感染予防のため吹込みの実技は行いません。</p> <p>○気道異物除去</p> <p>気道異物の症状と除去の手順(背部叩打法と腹部突き上げ法)を学びます。</p>
② 受講資格	満 15 歳以上
③ 認定証等	<p>受講証を交付します。</p> <p>検定合格者に赤十字ベーシックライフサポーター認定証(5 年間有効)を交付します。</p>
④ 講習時間	5 時間以上(休憩時間を含まない)
⑤ 講習人数	10～30 人
⑥ 教材費	1,500 円(教本代、保険料を含む)
⑦ 受講者が用意するもの	筆記用具、動きやすい服装(スカート、ヒール不可)
⑧ 会場に準備するもの	<p>【学科】机、椅子、ホワイトボード、<u>パソコン、プロジェクター、スクリーン</u></p> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生訓練用人形……………4 人に 1 体 ・AED トレーナー……………4 人に 1 台 ・毛布……………4 人に 1 枚 ・ブルーシート

2. 救急法救急員養成講習

① 講習内容	<p>日常での事故防止、急病の手当、きずの手当(止血・包帯)、骨折の手当(固定)、傷病者の搬送方法などを学ぶ講習です。</p> <p>○日常での事故防止・急病の手当</p> <p>心臓発作や脳卒中の症状や手当、気温の上昇に伴い増加する熱中症などへの正しい知識を学び、事故防止と急病への手当を身に付けます。</p> <p>○きずの手当(止血・包帯)</p> <p>きずの種類や危険性について学びます。実技では、傷口をガーゼやハンカチなどで直接圧迫する止血、専用の止血帯を使った止血方法や保護ガーゼと包帯(三角巾等)による、額や頭、前腕などのきずの手当を学びます。</p> <p>○骨折の手当(固定)</p> <p>骨折の分類と観察、手当の方法を学びます。実技では、副子を使用し、手首や膝の骨折の固定を行います。また、三角巾を使った、鎖骨骨折の固定も行います。</p> <p>○傷病者の搬送方法</p> <p>搬送の必要性や注意事項を学び、担架や毛布を使用した搬送実技を行います。また、傷病者を1人で運ぶ方法も実践します。</p>
② 受講資格	<p>○ 満15歳以上で全日程参加できる方</p> <p>○ 有効期限内の「救急法基礎講習修了者認定証」または「赤十字ベーシックライフサポーター認定証」を有していること</p>
③ 認定証等	<p>受講証を交付します。</p> <p>検定合格者に救急法救急員養成講習認定証(5年間有効)を交付します。</p>
④ 講習時間	12時間以上(休憩時間を含まない) ※ただし、1日の講習時間は7時間以下
⑤ 講習人数	10～30人
⑥ 受講費	1,800円(教本代、保険料を含む)
⑦ 受講者が用意するもの	<p>筆記用具、動きやすい服装(スカート、ヒール不可)</p> <p>・ビニール袋 …………… 2枚</p>
⑧ 会場に準備するもの	<p>【学科】机、椅子、ホワイトボード、<u>パソコン、プロジェクター、スクリーン</u></p> <p>【実技】</p> <p>・担架 …………… 8人に1台</p> <p>・副子および固定用三角巾 …………… 4人に1組</p> <p>・専用の止血帯(ターニケット) …………… 2人に1個</p> <p>・身近にある20cm程度の棒 …………… 2人に1本</p> <p>・ブルーシート</p>
⑨ その他	<p>救急法基礎講習と併せて3日間での開催も可能です。</p> <p>開催申込書の「救急法基礎講習+救急法救急員養成講習」をご選択ください。</p>

3. 救急法短期講習

① 講習内容	<p>下記 2 項目の中から希望する内容を選んでください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>講習内容</th><th>講習時間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 『心肺蘇生(AED を用いた除細動含む)』 一次救命処置、AED の使い方を学科と実技で学びます。</td><td>1 時間 30 分</td></tr> <tr> <td>B 『包帯(三角巾)』 三角巾を使用し、きずの手当を学科と実技で学びます。</td><td>1 時間 30 分</td></tr> </tbody> </table> <p>【オプション】 AまたはBと併せて開催いたします。<u>オプションのみの開催はいたしません。</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>講習内容</th><th>講習時間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 『体位・保温・止血』 体位変換、保温の仕方、止血の仕方を学科と実技で学びます。</td><td>30 分</td></tr> <tr> <td>II 『搬送』 搬送の必要性、注意事項を学科と実技で学びます。</td><td>30 分</td></tr> <tr> <td>III 『固定』 骨折の症状、副子を使った固定・効果を学科で学びます。</td><td>30 分</td></tr> </tbody> </table> <p>【申込例】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>講習内容</th><th>講習時間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 『心肺蘇生(AED を用いた除細動含む)』</td><td>1 時間 30 分</td></tr> <tr> <td>I 『体位・保温・止血』</td><td>30 分</td></tr> <tr> <td>合計講習時間</td><td>2 時間</td></tr> </tbody> </table>	講習内容	講習時間	A 『心肺蘇生(AED を用いた除細動含む)』 一次救命処置、AED の使い方を学科と実技で学びます。	1 時間 30 分	B 『包帯(三角巾)』 三角巾を使用し、きずの手当を学科と実技で学びます。	1 時間 30 分	講習内容	講習時間	I 『体位・保温・止血』 体位変換、保温の仕方、止血の仕方を学科と実技で学びます。	30 分	II 『搬送』 搬送の必要性、注意事項を学科と実技で学びます。	30 分	III 『固定』 骨折の症状、副子を使った固定・効果を学科で学びます。	30 分	講習内容	講習時間	A 『心肺蘇生(AED を用いた除細動含む)』	1 時間 30 分	I 『体位・保温・止血』	30 分	合計講習時間	2 時間
講習内容	講習時間																						
A 『心肺蘇生(AED を用いた除細動含む)』 一次救命処置、AED の使い方を学科と実技で学びます。	1 時間 30 分																						
B 『包帯(三角巾)』 三角巾を使用し、きずの手当を学科と実技で学びます。	1 時間 30 分																						
講習内容	講習時間																						
I 『体位・保温・止血』 体位変換、保温の仕方、止血の仕方を学科と実技で学びます。	30 分																						
II 『搬送』 搬送の必要性、注意事項を学科と実技で学びます。	30 分																						
III 『固定』 骨折の症状、副子を使った固定・効果を学科で学びます。	30 分																						
講習内容	講習時間																						
A 『心肺蘇生(AED を用いた除細動含む)』	1 時間 30 分																						
I 『体位・保温・止血』	30 分																						
合計講習時間	2 時間																						
② 講習時間	1 時間 30 分／項目（オプションは、30 分／項目） ※講習時間の短縮はできません。定められた講習時間を厳守してください。																						
③ 講習人数	10～30 人																						
④ 受講費	無料																						
⑤ 受講者が 用意するもの	筆記用具、動きやすい服装(スカート、ヒール不可) A ・呼気吹込み用具 …………… 1 個 157 円で斡旋可 ※感染予防対策として当面の間、人工呼吸の実技は実施いたしません。 B ・三角巾 …………… 1 枚 150 円で斡旋可 ・保護ガーゼまたはハンカチ																						
⑥ 会場に 準備するもの	【学科】 机、椅子、ブルーシート、ホワイトボード、 <u>パソコン、プロジェクター、スクリーン</u> 【実技】 講習内容により、以下のものがが必要です。 A ・心肺蘇生訓練用人形 …………… 4～6 人に 1 体 ・AED トレーナー …………… 4～6 人に 1 台 II ・担架 …………… 1 台																						

4. 赤十字 BLS 入門講座(救急法短期講習)

BLS(一次救命処置)とは、心肺蘇生と AED を用いた除細動で、心臓や呼吸が停止した傷病者を救命するために行う救命処置です。

平成 22 年に「BLS」が見直され、国内救命率向上のためには、BLS 普及のすそ野を拡げることが肝要で、特に児童・生徒に対する普及の必要性が訴えられています。

静岡県支部では、小・中学校の児童・生徒を対象とした「BLS 入門講座」を積極的に開催し、国内における更なる救命率の向上に寄与したいと考え実施します。

① 講習内容	一次救命処置の基本『心肺蘇生(胸骨圧迫)』『AEDを用いた除細動』
② 受講資格	小学生高学年、中学生 ※高校生の受講申し込みは、ご相談ください。
③ 講習時間	45 分または 50 分
④ 講習人数	10～60 人 ※これ以上の場合は、 <u>時間や日にちを分けるなど、調整をお願いします。</u>
⑤ 受講費	無料
⑥ 受講証	児童・生徒に受講証を交付します。
⑦ 受講者が用意するもの	実技のできる服装(ズボン、スニーカーが良い) ・呼気吹込み用具 …………… 1 個 157 円で斡旋可 ※感染予防対策として当面の間、人工呼吸の実技は実施いたしません。
⑧ 会場に準備するもの	【学科】 <u>パソコン、プロジェクター、スクリーン</u> 【実技】 ・心肺蘇生訓練用人形 …………… 1 体 ・AED トレーナー …………… 1 台 ・簡易訓練用人形(ミニアン) …………… 受講者人数分

具体的な流れ(予定)については、次のとおりです。

講習時間		講習内容	指導方法
学科	25 分	○ 一次救命処置とは ○ 救命の連鎖 ○ 観察と手当	○ 受講者資料による説明
実技	20 分～25 分	○ 反応(意識)、呼吸の確認 ○ 胸骨圧迫 ○ 気道確保と人工呼吸(デモのみ) ○ AED の手順	○ 動画またはデモによる説明 ○ 実技の体験 (1 人 1 体の簡易訓練人形) (疑似 AED による操作)

水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水の事故から生命を守るための知識と技術が学べます。
講習は、救助員Ⅰ養成講習(プール)、短期講習があり、内容は次のとおりです。

1. 水上安全法救助員Ⅰ養成講習

① 講習内容	『水上安全法について』、『水の活用と事故防止』、『安全な水泳と自己保全』 『安全管理と監視』、『救助』、『応急手当』
② 受講資格	○ 満 15 歳以上で、以下の泳力を有し、全日程参加できる方 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> クロールおよび平泳ぎで各 100m 以上、いずれか 1 種目は 500m 以上、 立ち泳ぎ 3 分以上、立ち飛び込み 1m 以上、横泳ぎ 25m 以上、 潜行 15m 以上の能力 </div> ○ 有効期限内の「救急法基礎講習修了者認定証」または「赤十字ベーシックライフサポーター認定証」を有していること
③ 認定証等	受講証を交付します。 検定合格者に水上安全法救助員Ⅰ認定証(5年間有効)を交付します。
④ 講習時間	17 時間以上(休憩時間を含まない) ※ただし、1 日の講習時間は 7 時間以下
⑤ 講習人数	10～30 人
⑥ 受講費	700 円(教本代、保険料を含む)
⑦ 受講者が 用意するもの	筆記用具、動きやすい服装(スカート、ヒール不可)、 水着、水泳帽、タオル、着替え 等
⑧ 会場に 準備するもの	【学科】机、椅子、ホワイトボード、 <u>パソコン、プロジェクター、スクリーン</u> 【実技】救助用チューブ、リングブイ、バックボード(ストラップ含む)、 ヘッドイモビライザー、ストップウォッチ、竹竿、救急箱、AED 等
⑨ 会場の設定	【学科】講義のできる会議室 【実技】プール(一部水深 130cm 以上)、実技のできる会議室
⑩ その他	救急法基礎講習と併せて 4 日間での開催も可能です。 開催申込書の「救急法基礎講習＋水上安全法救助員Ⅰ養成講習」をご選択ください。

2. 水上安全法短期講習

① 講習内容	<p>下記 2 項目の中から希望する内容を選んでください。</p> <table border="1" data-bbox="419 176 1430 501"> <thead> <tr> <th data-bbox="419 176 1200 232">講習内容</th><th data-bbox="1200 176 1430 232">講習時間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="419 232 1200 394"> A 『心肺蘇生(AED を用いた除細動含む)』 一次救命処置、AED の使い方を学科と実技で学びます。 プール監視のポイントを学科で学びます。 </td><td data-bbox="1200 232 1430 394">1 時間 30 分</td></tr> <tr> <td data-bbox="419 394 1200 501"> B 『溺者の救助』 プールまたは会議室で溺者の救助を学科と実技で学びます。 </td><td data-bbox="1200 394 1430 501">1 時間 30 分</td></tr> </tbody> </table>	講習内容	講習時間	A 『心肺蘇生(AED を用いた除細動含む)』 一次救命処置、AED の使い方を学科と実技で学びます。 プール監視のポイントを学科で学びます。	1 時間 30 分	B 『溺者の救助』 プールまたは会議室で溺者の救助を学科と実技で学びます。	1 時間 30 分
講習内容	講習時間						
A 『心肺蘇生(AED を用いた除細動含む)』 一次救命処置、AED の使い方を学科と実技で学びます。 プール監視のポイントを学科で学びます。	1 時間 30 分						
B 『溺者の救助』 プールまたは会議室で溺者の救助を学科と実技で学びます。	1 時間 30 分						
② 講習時間	1 時間 30 分						
③ 講習人数	10～30 人						
④ 受講費	無料						
⑤ 受講者が 用意するもの	筆記用具、動きやすい服装(スカート、ヒール不可) A 呼気吹込み用具(1 個 157 円で斡旋可) ※希望する場合のみ B 水着、水泳帽、タオル、着替え						
⑥ 会場に 準備するもの	【学科】 机、椅子、ブルーシート、ホワイトボード、 <u>パソコン、プロジェクター、スクリーン</u> 【実技】 講習内容により、以下のものがが必要です。 A ・呼気吹込み用具 …………… 1 個 157 円で斡旋可 ※感染予防対策として当面の間、人工呼吸の実技は実施いたしません。						
⑦ 会場の設定	A 講義・実技のできる会議室 B プール、講義・実技のできる会議室						

健康生活支援講習

高齢の家族や地域の高齢者との接しかた、車いすでの移動法や食事の介助など、介護のしかたや、自身がすこやかな高齢期を迎えるための知識や技術について学べます。

講習は、健康生活支援講習支援員養成講習・短期講習・災害時高齢者生活支援講習があり、内容は次のとおりです。

1. 健康生活支援講習支援員養成講習

① 講習内容 (学科・実技)	<p>『高齢者の健康と安全』</p> <p>健康増進、介護予防などの知識・技術及び高齢者に起こりやすい事故の予防と手当・急病への対応等</p> <p>『地域における高齢者支援』</p> <p>地域で介護的支援を必要とする高齢者に対応するときに役立つ基礎的知識・技術</p> <p>『日常生活における介護』</p> <p>要介護高齢者に対する自立支援の考え方、技術とともに、認知症高齢者への理解を学びます。</p> <p>リラクゼーション、車椅子、杖歩行の介助、からだの移動・清潔、食事・排泄・衣服の着脱の介助、癒しのハンドケア等</p>
② 受講資格	満 15 歳以上
③ 認定証等	<p>全日程受講者に受講証を交付します。</p> <p>検定合格者に「赤十字健康生活支援講習支援員」の認定証を交付します。</p>
④ 講習時間	13 時間以上(検定を含む) ※講習日程は、連日でなくても構いません。
⑤ 講習人数	10～20 人
⑥ 受講費	900 円(教本代、保険料を含む)
⑦ 受講者が 用意するもの	<p>動きやすい服装(スボン、スニーカー)で受講して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・タオル(目安として 30×85cm) ……………2 枚 ・プリンまたはヨーグルトとスプーン ……………各 1 個 ・前開きパジャマ上下 ……………1 着
⑧ 会場に 準備するもの	<p>【学科】机、椅子、ホワイトボード</p> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす ……………4 人に 1 台 ・ベッド ……………10 人に 1 台 ・熱湯入りポット ……………1 人 100ml(例:20 人なら 2L) ・マグカップ(熱湯を取り扱うため) ……………2 個

2. 健康生活支援講習短期講習

<p>① 講習内容 および時間</p>	<p>下記 6 項目の中から希望する内容を選んでください。</p> <p>A 『健康な高齢者をめざして』 ～生活習慣病の予防～-----1 時間以上</p> <p>B 『健康な高齢者をめざして』 ～ロコモティブシンドロームを知ろう～-----1 時間以上</p> <p>C 『日常生活における自立に向けた介護』 (①～④の中からさらに選択してください。各 1 時間以上)</p> <p>①移動・車椅子</p> <p>②食事</p> <p>③排泄</p> <p>④着替え・清潔</p> <p>D 『地域で支える認知症』-----1 時間以上</p> <p>E 『地域における高齢者支援』-----1 時間以上</p> <p>地域における高齢者支援の必要性を理解し、支援者の心構えと支援に生かせるリラクゼーション(またはレクリエーション)を体験します。</p> <p>S 『災害時高齢者生活支援講習』-----2 時間</p> <p>災害時、被災した高齢者の避難所生活に焦点を当て、高齢者の不安を軽減し、高齢者を不自由な生活から高齢者を守るために必要な知識や支援技術を学びます。</p> <p>実技…リラクゼーション、足浴 等</p>
<p>② 講習人数</p>	<p>10～20 人</p>
<p>③ 受講費</p>	<p>S 『災害時高齢者生活支援講習』は、小冊子代 53 円(1 人 1 冊)が必要です。</p> <p>D 『地域で支える認知症』は、ご希望により冊子を斡旋します。(1 人 1 冊 53 円)</p> <p>その他の項目は、プリントの資料を使用します。</p>
<p>④ 受講者が 用意するもの</p>	<p>動きやすい服装(ズボン、スニーカー)で受講して下さい。</p> <p>筆記用具の他、講習内容により、以下のものがが必要です。</p> <p>C②・飲み物(ペットボトル可) ……………1 本</p> <p>・プリンまたはヨーグルトとスプーン ……………各 1 個</p> <p>C④・前開きパジャマ上下 ……………1 着</p> <p>・タオル(目安として 30×85cm) ……………2 枚</p> <p>・ビニール袋(タオル 1 枚をたたんで入れて、ゆとりのある大きさ) …1 枚</p> <p>S ・風呂敷(目安として一辺が 65～90 cm くらいのもの) ……………1 着</p> <p>・タオル(目安として 30×85cm) ……………2 枚</p> <p>・ビニール袋(タオル 1 枚をたたんで入れて、ゆとりのある大きさ) …1 枚</p>

<p>⑤ 会場に 準備するもの</p>	<p>【学科】机、椅子、ホワイトボード</p> <p>【実技】講習内容により、以下のものがが必要です。</p> <p>C①・ベッドまたはその代用となるもの(長机 2 脚など) ……5 人に 1 台</p> <p>・車いす ……4 人に 1 台</p> <p>・可能であれば杖 ……2～3 本</p> <p>C③・ベッドまたはその代用となるもの(この場合は椅子) ……5 人に 1 台</p> <p>・ポータブルトイレまたはその代用となるもの(椅子) ……5 人に 1 台</p> <p>C④・熱湯入りポット ……1 人 100ml (受講者が 20 名を超える場合は、ポットを 2 つご用意ください。)</p> <p>・マグカップ(熱湯を取り扱うために使用) ……ポット 1 つに つき 1～2 個</p> <p>・可能であれば杖 ……2～3 本</p> <p>E ・可能であれば CD デッキ(リラクゼーション時に曲を流します。) …1 台</p> <p>S ・熱湯入りポット ……1 人 100ml (受講者が 20 名を超える場合は、ポットを 2 つご用意ください。)</p> <p>・マグカップ(熱湯を取り扱うために使用) ……ポット 1 つに 1～2 個</p> <p>・毛布 ……4 人に 1 枚</p> <p>・可能であれば CD デッキ(リラクゼーション時に曲を流します。) …1 台</p> <p>・ブルーシートなどの床に敷くシート ……受講者全員が <u>※土足の会場は必ずご用意ください。</u> 横になれる分</p>
-------------------------	--


幼児安全法

子ども(未就学児、以下同)に起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気とその対処、子どもへの心肺蘇生(AEDの使い方を含む)のほか、災害時における乳幼児とその保護者への対応などについて学べます。
講習は、支援員養成講習、短期講習があり、講習内容は次のとおりです。

1. 幼児安全法支援員養成講習

① 講習内容	『子どもの成長発達と事故予防』、『子どもの応急手当』、『子どもの病気と看病のしかた』 『乳幼児の一次救命処置(乳児中心)』、『地域の子育て支援・災害時の乳幼児への支援』
② 受講資格	満15歳以上で全日程参加できる方
③ 認定証等	受講証を交付します。 検定合格者には「赤十字幼児安全法支援員」認定証を交付します。
④ 講習時間	14時間以上(休憩時間を含まない) ※ただし、1日の講習時間は7時間以下
⑤ 講習人数	10～30人
⑥ 受講費	1,900円(教本代、教材実費、保険料を含む)
⑦ 受講者が用意するもの	動きやすい服装(ズボン、スニーカー)で受講して下さい。 ・筆記用具 ・薄手で大判のハンカチ(目安として52×52cm) …1枚 ・ビニール袋(片手が入る大きさのもの、レジ袋可) …2枚
⑧ 会場に準備するもの	【学科】机、椅子、ホワイトボード 【実技】 ○心肺蘇生用訓練人形(乳児) ……4人に1体 ○AEDトレーナー ……乳児人形と同数 ○小児用パッド ……AEDトレーナーと同数 (AEDトレーナーに成人・小児用の切り替えスイッチが付いている場合は不要。) ○心肺蘇生用訓練人形(幼児) ……1～2体 ○ブルーシートなど床に敷くシート ……人形を置いて受講者全員が座れるくらいの大きさ 目安として20人で5.4×7.2m <u>※土足の会場は必ずご用意ください。</u> ・手洗い実技用の洗面器・やかん・石けん ……各1(水道がある場合は不要。) ・熱湯入りポット ……1人100ml ○＝貸し出し可能です。

2. 幼児安全法短期講習

<p>① 講習内容 および時間 (学科・実技)</p>	<p>下記3項目の中から希望する内容を選んでください。</p> <p>各項目 1 時間 30 分</p> <p>複数項目の選択が可能です。</p> <p>講習時間は A+B…2 時間 30 分、A+C、B+C…3 時間、A+B+C…4 時間となります。</p> <p>A 『乳幼児の心肺蘇生(AED による除細動を含む)』(幼児中心)</p> <p>子どもに起こりやすい事故とその予防・手当、一次救命処置・気道異物除去</p> <p>B 『身近なものを使った子どものけがの手当』</p> <p>子どもに起こりやすい事故とその予防・手当、一次救命処置以外の応急手当(ハンカチ、ストッキングを使ったきずの手当)</p> <p>C 『災害時における乳幼児への対応』</p> <p>災害時における子どもの気をつけたいところとからだのサインと対処法、保護者への配慮、被災時でも心地よく生活するための工夫、災害への備え</p>
<p>② 講習人数</p>	<p>10～30 人</p>
<p>③ 受講費</p>	<p>無料(プリントの資料を使用します。)</p> <p>A を選択した場合、呼気吹込み用具が 1 人 1 個必要です。(1 個 157 円で斡旋可)</p>
<p>⑤ 受講者が 用意するもの</p>	<p>動きやすい服装(ズボン、スニーカー)で受講して下さい。</p> <p>講習内容により、以下のものが必要です。</p> <p>A・呼気吹込み用具……………1 個(157 円で斡旋可)</p> <p>B・<u>薄手で大判の</u>ハンカチ(目安として 52×52cm)……………1 枚</p> <p>・ストッキング……………1 足</p> <p>・レジ袋(目安として長さ 53cm)……………1 枚</p> <p>・ハサミ……………1 本</p> <div data-bbox="1182 1574 1406 1727">  </div> <p>C・<u>薄手で大判の</u>ハンカチ(目安として 52×52cm)……………1 枚</p> <p>・タオル(目安として 30×85cm)……………2 枚</p> <p>・ビニール袋(タオル 1 枚をたたんで入れて、ゆとりのある大きさ)………1 枚</p>

<p>⑥ 会場に 準備するもの</p>	<p>【学科】机、椅子、ホワイトボード</p> <p>【実技】講習内容により、以下のものがが必要です。</p> <p>A○心肺蘇生用訓練人形(幼児) …………… 4 人に 1 体</p> <p>○AED トレーナー …………… 乳児人形と同数</p> <p>○小児用パッド …………… AED トレーナーと同数</p> <p>(AED トレーナーに成人・小児用の切り替えスイッチが付いている場合は不要。)</p> <p>○心肺蘇生用訓練人形(乳児) …………… 1～2 体</p> <p>○ブルーシートなど床に敷くシート …………… 人形を置いて受講者全員が <u>※土足の会場は必ずご用意ください。</u> 座れるくらいの大きさ 目安として 20 人で 5.4×7.2m</p> <p>○＝貸出可能です。</p> <p>C ・熱湯入りポット……………1 人 100ml (受講者が 20 名を超える場合は、ポットを 2 つご用意ください。)</p> <p>・マグカップ(熱湯を取り扱うために使用) ……………ポット 1 つに 1～2 個</p> <p>・可能であれば CD デッキ(リラクゼーション時に曲を流します。) ……1 台</p>
<p>⑦ その他</p>	<p>・未就学児のお子様と同会場での受講は、お子様の安全のためご遠慮くださいますようお願いいたします。</p> <p>・託児がある場合は、別会場をお願いいたします。</p>

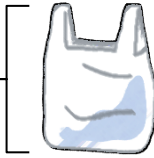
減災セミナー

東日本大震災後、県民の「防災」や「減災」への関心の高まりを受けて開始しました。

近年、地震以外にも台風などの災害が頻発し、災害への備え-減災-がより重要になっています。

災害救護を行ってきた赤十字が持つ様々なノウハウをもとに、災害による被害を少なくするためにできること、避難所で生活する場合に気をつけたいことについて学び、自助と共助の役に立てていただく講習です。

学校の授業時間に合わせた 45、50 分コースは、90 分コースの中から、特に大切な内容に焦点を当てて行います。詳しく学びたい場合は、従来の 90 分コースをお申し込みください。

① 講習内容 (学科・実技)	「巨大地震」「減災とは」「非常持ち出し品」「避難所生活」 「避難所で気をつけたい病気とその予防」、(45 分・50 分コースのみ) 個人ワーク ・ハンカチを使用した止血、手の甲のきずの手当 ・レジ袋を使用した腕の吊り ・新聞紙で作るスリッパ ・(50 分コース、90 分コースのみ) 新聞紙で作るペーパーバッグ 90 分コースは、以下の実技が追加となります。 ・レジ袋で作る簡易オムツ ・毛布を使用してガウンのように羽織って保温、毛布を使用した搬送
② 受講資格	小学校高学年以上
③ 講習時間	90 分または 45 分・50 分(学校の授業単位)
④ 講習人数	10～80 人 ※45 分・50 分コースの場合は、 <u>同時に実施できるのは、最大 3 クラスくらいまで</u> 。 これ以上の場合は、 <u>時間や日にちを分けるなど、調整をお願いします</u> 。
⑤ 受講費	無料(プリントの資料を使用します。)
⑥ 受講者が 用意するもの	動きやすい服装(スボン、スニーカー)で受講して下さい。 ・筆記用具 ・レジ袋(止血・腕の吊り・簡易オムツ) ……………2 枚 長さの目安として 高校生以上…53 cm 小中学生……48 cm <div><div>長さ</div></div> ・ハサミ(腕の吊り・簡易オムツ) ……………1 本 ・ <u>薄手で大判の</u> ハンカチ(止血、手の甲のきずの手当) ……………1 枚 大きさの目安として 52×52 cm のもの(三角巾不可) ・新聞紙(スリッパ 2 枚、ペーパーバッグ 1 枚) ……………3 枚
⑦ 会場に準備 するもの	【90 分コースのみ】以下のものを準備してください。 ・毛布(ガウン、担架) ……………6～8 人当たり 1 枚 ・腰ひもになるもの(三角巾やストッキングなど) ……………毛布と同数 (ガウンで毛布を羽織った際に、腰で結ぶために使用) ・可能であればプロジェクター、スクリーン、パワーポイントが使用できるパソコン 学科で使用します。